

西浦の森再生プロジェクト

オートキャンプもぐら

事業目的

オートキャンプもぐらのある場所は、35年前に大企業により造成、土木工事が行われたがそのまま使われずにいた山です。この場所の現在は土地は痩せ、多様性が減り、山頂付近は枯れた木が目立ち、小さい土砂崩れの跡も数箇所あります。当時の工事によって山の涵養力が失われ、生物多様性が失われている山を、元の健全な状態の山に再生するプロジェクトです。このプロジェクトを通して、環境再生に賛同してくれる人を集めコミュニティを作り、この啓蒙活動の輪を広げていけたらと考えます。そして参加者（沼津市民や周辺地域の方）に現代の山で起きている問題を理解してもらい、自然環境に対する意識の改善を目的とします。無知だったことにより自然を意図せず破壊してしまった昭和、それを修復していくのが令和の時代と考えます。

現状と目標

現在、この山は木々の枯死や雨水による土壌の浸食も進んでいます。目標は、保全活動を通じて、健全な森の生態系を取り戻すことです。また、地域住民やボランティアが参加できる継続的な仕組みを構築し、将来的には自立的に維持・再生される森を目指します。

活動と成果

10ヶ月で8日間活動をしました。集客が難しく1日の最大参加者数は6名で、最低は1名でした。しかし延べ30名以上の参加がありました。
参加者アンケートの結果、約9割が「自然への理解が深まった」と回答し、自然環境に対する意識の変化が生まれました。

関連図

- ・地元の中学生
- ・沼津市の協力隊の方
- ・炭の研究者
- ・松崎町の協力隊の方
- ・東京のラーメン屋さん
- ・地元の農家さん

振り返り課題

- ・集客が難しく、活動人数が安定しない
- ・継続的な資金確保の仕組みが未整備
- ・天候に左右されやすく、計画の柔軟性が課題
- ・活動内容が一部に偏り、広い層への参加呼びかけが不足
- ・参加者間の交流や情報共有の仕組みが弱い
- ・成果を地域社会に発信する広報活動が不十分

